

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）岩手中部ブロック 会議録

【岩手中部ブロック：花巻市、北上市、西和賀町】

- 日 時：令和2年8月18日（火）14時00分～16時00分
- 場 所：岩手県立生涯学習推進センター 2階 第1・2研修室
- 出席者
 - ① 会議構成員
 - 花巻市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 北上市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 西和賀町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - ② 事務局（県教育委員会）
 - 中部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）
- 傍聴者：一般11人、報道3人
- 会議の概要
 - ◆ 議題及び報告事項
 - 1 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

- (1) 後期計画の基本的な考え方等について
- (2) 後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 1 新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要、資料 No. 3 「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」に基づき説明。

【酒本 西和賀町商工会女性部長】

- ・ 北海道において、地域連携特例校に指定されている高校は、入学者が10人以上ならば存続させる方針と聞いている。後期計画案においては、特例校であっても「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」との基準が示されているが、20人を基準としている理由を伺いたい。

【県教委】

- ・ 高校では、学校生活や学級活動を通じ社会性や協調性を育み、社会につながる前段階としての役割があるものと考えており、生徒が集団の中で経験を重ね、切磋琢磨しながら成長できるよう、一定の人数が必要であるものと考えている。
- ・ 現在の1学級校の多くは、生徒の希望する進路に対応するため、進学と就職でコースに分かれて授業が行われている。そこに選択科目を加えると1つの授業を数人で行うような場合も生じることとなり、グループに分かれてのディスカッションのような多様な授業展開も困難となる等、教育効果の面で影響も大きいものと考えられることなどから、本県においては、最低限必要な生徒数を1学年20人と設定しているものである。

【酒本 西和賀町商工会女性部長】

- ・ 地域にとって高校の存在は大きく、西和賀高校は地域にとって必要な学校と考えている。
- ・ 大規模校だけに生徒が集中する状況は好ましくないと考えており、大規模校だけが残るような状況とならないようにしてもらいたい。
- ・ 北上市から奥州市にかけて多くの企業が集中している。工業高校においては、企業のニーズに対応した専門性を高められるよう教育内容の充実を図る必要があると考えている。

【細井 西和賀町長】

- ・ 後期計画案においては、盛岡一極集中の緩和や地方創生の観点から小規模校も存続させるなど、良い内容であると評価している。
- ・ 西和賀高校では、「夢を叶える学校づくり」を掲げ、習熟度別学習等を行うなどきめ細かな指導を実践しており、生徒の進路実現につなげている。このことは、教員の努力に頼る部分も多く、教員の負担も大きくなっていることから、特に、小規模校については教員の加配を重点的に行ってもらいたい。
- ・ 生まれ育った地域を知ることは重要なことと考えている。現在、西和賀町と西和賀高校が一体となり、地方創生を目指す探究学習の「いのち輝く百年創造塾」に取り組んでおり、役場の職員と高校生が、今後の町の将来について議論し、町議会議員の前で発表するなどの積極的な活動を行っている。
- ・ 地域の中に大規模校や小規模校があるなど、中学生の選択肢が確保されている状態が理想と考えており、今後においても、中学生の選択肢の確保をお願いしたい。
- ・ 前期計画に引き続き、後期計画においても、西和賀高校を特例校として継続していただくことについては感謝するものの、「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」の基準については再考をお願いしたい。仮に、入学者が20人以下となったとしても、地域で学びたいという生徒がいる限り、高校を存続させるべきである。県内一律の基準ではなく、地域の実情等も踏まえたものとなるようにしてもらいたい。

【及川 北上市副市長】

- ・ 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方について、これまでの議論を十分に踏まえた内容となっており、素晴らしいものと評価している。
- ・ 資料 No. 2 の「いわて地域担い手育成支援事業」について、小規模校に限った事業となっているが、高校の魅力化は小規模校に限らず、全ての高校にとって必要な視点であると考えている。この点について、県教委の考え方を伺いたい。
- ・ 後期計画の具体的な取組として、地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備を掲げており、産業集積が進んでいる県南地域において大規模な工業高校の新設を示したことについては評価しているが、大規模とすることの説明が足りないように感じている。大規模とすることの理由について伺いたい。
- ・ 盛岡工業高校、黒沢尻工業高校及び県南地域における工業高校の位置づけを示す必要があるものと考えている。

【県教委】

- ・ 「いわて地域担い手育成支援事業」について、今年度は小規模校を対象に実施しているが、次年度においては、小規模校以外にも対象を拡大していきたいと考えている。高校の魅力化を進めていくことは、地域の魅力化にもつながるものと捉えている。
- ・ 県教委は、前期計画を含め、これまで約20年に渡って高校再編について取り組んでいると

ころ。これまでは、ブロック内での再編を考えてきたところであるが、後期計画においては、これまでの考え方から一步踏み込んで、ブロックを越えた再編を考えたところである。

- ・ 統合により学校規模を拡大することによって、現在設置している機械、電気、土木のほか、全国的にも設置数の少ない設備システム、インテリアの特色ある学びを確保するとともに、ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びを実現する学科の創設を検討しながら、多くの学びを揃えた上で、県南地域の産業人材の育成を担う高校としたと考えている。
- ・ 盛岡工業高校、黒沢尻工業高校及び県南地域における大規模な工業高校の各校が切磋琢磨するなかで、地域の産業を担う人材を育成したいと考えている。

【平野 北上市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方は、大変素晴らしいものと評価している。特に、生徒の希望する進路の実現に向け、中学生の選択肢を確保することは重要と考えている。
- ・ 北上市では、今年度から中高連携の事業を予算化し、様々な取組を行うこととしている。具体的には、北上市内の高校の教員が、各中学校に出向き授業を行う「出前授業」などを実施している。現在、北上市内の中学校卒業者の4割近くが北上市以外の高校へ進学している状況にあることから、中高連携の事業により、地元高校の良さを知り、地元高校への進学者の増加につなげていきたいと考えている。
- ・ 中高の連携は重要と考えており、今後も市をあげて取り組んでいきたいと考えている。

【上田 花巻市長】

- ・ 示された後期計画案は、これまで岩手中部ブロックで開催された地域検討会議の中で出された意見が反映された内容となっているものと認識している。特に、前期計画で学級減等を予定していた花巻南高校、花北青雲高校については、定員を満たしている現状を踏まえ、学級減等を行うべきではないと、これまでの会議で申し上げてきたところであるが、両校の学級減等を後期計画に入れなかったことに対し感謝を申し上げるとともに、大迫高校を含む1学級校の存続や盛岡一極集中を緩和する視点が入り入れられたことについても良いことと考える。
- ・ 医師や弁護士、高度な産業人材の育成のため7学級校についても維持するとの説明があったが、7学級校は盛岡市内に集中しており、県南地域には設置されていない状況である。花巻北高校は1学年6学級であり、一関第一高校は今年度から1学年5学級となっているが、この状況が果たして良いものか疑問を感じている。
- ・ 東京都においては、公立私立を問わず、中高一貫教育により大学進学等の成果を挙げている学校が多数ある。岩手県内にも能力を秘めているにもかかわらず、その能力を伸ばし切れていない生徒がいるものと思われることから、県内に中高一貫教育校を増やし、中学生のうちから生徒の能力を伸ばす体制を整える必要があるものと考えている。
- ・ 岩手に生まれ育った生徒全てが地元に残るべきであり、岩手を離れ、首都圏などへ行くことは良くないとする風潮が高まっていることに疑問を感じている。地元に残る生徒を育てていく視点だけでなく、県外において活躍し、県外から岩手を支援する生徒を育てる視点も必要と考えている。

【県教委】

- ・ 資料 No. 2 の中に「県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校は、学校規模を確保」との記載があるが、この「7学級校等」の中には花巻北高校（1学年6学級）、黒沢尻北高校（1学年6学級）及び水沢高校（1学年6学級）も含まれており、

これらの高校についても、県政課題へ対応した人材育成に期待をしているところである。

- ・ 一関第一高校附属中学校は平成 21 年度に設置されたものであり、平成 30 年度末に、附属中学校の第 1 期生が 4 年制大学を卒業したものの、医学部など 6 年制の大学に進学した生徒もあり、在学中の学生もいる状況である。
- ・ 併設型中高一貫教育校の設置については、一関第一高校附属中学校卒業者の大学卒業後の進路状況等を見極める必要があるものと考えている。また、令和 2 年度入試から附属中学校の募集定員が 80 人から 70 人へと変更になったものの、志願倍率は前年度を下回る状況となったことから、今後の志願状況の推移等もあわせて、今後考えていく必要がある。

【上田 花巻市長】

- ・ 中高一貫教育校にも様々な課題があるものと思われるが、東京都立の中高一貫教育校においては、進学実績等で大きな成果を上げている学校もある。今後、県内に中高一貫教育校の設置を検討する必要があるものと考えている。
- ・ 一関第一高校においては、高校から入学する生徒と附属中学校から進学した生徒とを区別せず、同じ内容を学んでいるようであるが、中高一貫教育校として、この形態が良いのかという点についても考えていく必要があるものと思う。

【佐藤 北上工業クラブ顧問】

- ・ 後期計画案で示されている基本的な考え方等の方向性は良いものと考えている。
- ・ 産業人材の育成に関わって、黒沢尻工業高校の専攻科の卒業生は、企業からの評価が非常に高いものの、12 人の定員では企業のニーズに応えられない状況にあることから、定員を増やす検討をお願いしたい。また、地方創生の観点も含め、県南地域や沿岸部にも専攻科の設置を考えていただきたい。
- ・ 近年、黒沢尻工業高校や水沢工業高校においては、機械系、電気系の国家資格試験の合格者が増加しており喜ばしい状況と感じている。ただし、実際の仕事の場面においては、複合した知識が要求されることから、例えば、機械科の生徒が電気科の科目の一部を選択できるようにするなど、柔軟な教育課程としてほしいと考えている。
- ・ 地元の企業は、高校生のインターンシップで多くの生徒を受け入れているが、今後においても、積極的に受け入れるつもりである。今後も高校と地元企業の連携に積極的に取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 東京都立葛西工業高校にはデュアルシステム科（2、3 年において、2 カ月程度の長期就業体験が授業に位置付けられている）があり、企業においてのものづくり等の体験をとおり、人材の育成を図っているとのことである。このような例も参考としてはどうかと考えている。

【佐藤 花巻市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画案は、これまでの地域検討会議で出された意見が反映されたものとなっており、意見を汲み取っていただき、感謝申し上げます。
- ・ 本県においては、広い県土であることや地理的条件によって地域ごとに様々な課題を抱えていること等を考慮しながら、高校再編を考える必要があるものと思う。
- ・ 大学等へは、普通科からの進学者が多い状況にあるが、先日、中教審から高校の普通科を再編し、従来の枠組みを超えた 3 つの類型が示されたところである。今後の普通科のあり方については、岩手の現状にあったものとしてほしいと考えており、関連して、岩手中部ブロックの花巻北高校または黒沢尻北高校に、従来の併設型や連携型ではない第三の形態の中高一貫教育校の設置を考えてみてはどうか。
- ・ 基本的な考え方の 1 つである「地域や地域産業を担う人づくり」について、教員の全てが、

勤務校が所在する地域の状況をしっかりと把握しているとは限らないことから、学校、行政、企業をコーディネートするシステムを構築する必要があるものと考えている。県には、そのシステムづくりをお願いしたいと考えており、市としても協力していきたいと考えている。

- ・ また、基本的な考え方のもう1つである「生徒の希望する進路の実現」について、中学時代に不登校傾向であった生徒や特別な支援を必要とする生徒が、高校入学後に進路変更することがなく、進路実現ができるよう、県には支援の強化をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 中高一貫教育校について、従来の併設型、連携型ではない第三の形態との提案をいただいたが、どのような形を想定しているのか、教えていただきたい。

【佐藤 花巻市教育委員会教育長】

- ・ 型としては、一関第一高校のような併設型を考えているが、学習内容が従来とは異なる学校を想定している。生徒が主体となり、自ら進んで学習することが理想と考えており、教科の枠にとらわれない探究型の学習を中心とした特徴ある教育課程を持つ学校が良いのではないかと考えている。

【柿崎 西和賀町教育委員会教育長】

- ・ 先日、西和賀高校を訪問し、黒沢尻北高校との遠隔授業を見学したが、今後の可能性を強く感じたところである。
- ・ また、3年生が1、2年生の前で発表する場面では、堂々と自分の考え方を発表する姿が印象的であった。北上市内の大規模な中学校から入学した生徒と話したが、西和賀高校は自分に合っており、居心地がよく高校生活が楽しいとの話を聞いた。
- ・ 西和賀高校は、生徒個々を伸ばしている学校と考えており、生徒の多様性に対応した学校を地域に残すことの重要性を感じたところである。
- ・ 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」という基準については、それぞれの地域の事情もあり、見直してもらいたい。

【高橋 西和賀町産業関係者代表】

- ・ 西和賀高校では、生徒個々に対するきめ細かな指導をしていただいているが、その分、教員の負担も大きいと感じている。多様な生徒に対応するためにも教員の加配等の支援をお願いしたい。
- ・ 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」という基準については、見直してほしいと考えている。

【今野 北上商工会議所専務理事】

- ・ 今年度は、新型コロナウイルスの影響によってオンラインでの面接が実施されるなど、高校生にとってICT等を活用できる技術を身に付けることの必要性は拡大している。「学びの改革プロジェクト」にあるICT等に関わる事業等については、前倒しで実施する必要があるものと考えている。
- ・ 後期計画において、ICT等の活用に関わる内容を、もっと強く打ち出しても良いものと考えている。

【酒本 西和賀町商工会女性部長】

- ・ 中高一貫教育校が設置されると、生徒の流出が加速するものと認識していた。中高一貫教育

校について説明いただきたい。

【県教委】

- ・ 中高一貫教育校と言っても、全国には様々な形態があることを御理解いただきたい。岩手県においては、併設型として一関第一高校と附属中学校、連携型として葛巻高校と葛巻町内の中学校及び軽米高校と軽米町内の中学校という2種類の形態がある。連携型においては、町内の中学生が町内の高校への入学を希望する場合には、一般的な入試とは異なる手続きにより進学できるものである。
- ・ 今後、一関第一高校の卒業生の動向等も見極めながら、岩手県における中高一貫教育校の良い形態について研究していく必要があるものと考えている。

【中村 花巻市校長会副会長】

- ・ 花巻地区の校長会で意見を聞いたところ、現状の高校の配置が良いとの意見が大勢を占めていたことから、後期計画案の方向性は良いものと考えている。
- ・ 1学級校の統合の基準として「2年連続で20人以下」が示されているが、このように具体的な数字が示されると、仮に、入学生が20人以下となった高校に進学を考えていた中学生が、次年度以降統合となるかもしれないと不安を感じるのではないかと。進路指導に影響が出ることも考えられる。
- ・ 高校の推薦入試について、各校の推薦基準の中で、部活動の実績を重視している点については見直す必要があるものと考えている。

【県教委】

- ・ 推薦基準については、各校が実情に合わせ設定しているものであるが、部活動における実績だけで合否を決めているものではない。生徒や保護者の中でそのように受け止めているならば、誤解を招かないようにしていきたい。

【佐藤 花巻商工会議所副会頭】

- ・ 後期計画における「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」の基本的な考え方は良いと評価している。
- ・ 今後も教育内容の充実や部活動の充実等を図るなど、魅力ある学校づくりに取り組むとともに、学校と地域との連携についても積極的に取り組んでいただきたい。

【高橋 花巻市産業関係者代表】

- ・ 「地域や地域産業を担う人づくり」に関連して、高校と地域社会が連携し協力する体制を築き、学習の成果や研究の成果が地域に生かされることが望ましいと考えており、特に、農業高校においては、この点が求められているものと考えている。
- ・ 例えば、地域と連携しながら、生徒が生産した農産物や地元の農産物等を商品化し販売するなどの実践的なプロジェクト学習を積極的に取り入れていく必要があるものと考えている。これらの学習に取り組み、地域貢献と地域の活性化を体感することによって、地域に貢献したいと考える人材が育っていくものと考えている。

【高橋 和賀地区校長会副会長】

- ・ 中学校の現場の声や進路の動向等についてお話ししたい。和賀地区の各中学校の進学先を見ると、中学校によって進学先に偏りがあることがわかる。このことは、中学校側の進路指導に問題があるのではないかと思うところである。中学校側の進路指導のあり方を見直すとともに、

中高の連携をさらに深め、高校に対する理解を進めていく必要があるものと考えている。

- ・ 北上市内の高校は、花巻市内の高校と比べ学科等の配置バランスが悪いように感じている。北上市から花巻市内の高校に進学する生徒が多いのは、このようなことが理由の一つとも考えられる。
- ・ 昨年度の和賀地区の中学生の進路状況における特徴として、例年に比べ、私立高校へ進学する割合が高いことが挙げられる。

【県教委】

- ・ 後期計画案は、これまでの地域検討会議や意見交換会でいただいた御意見を踏まえ作成したものであるが、計画案を作成して終わりではなく、あわせて、小規模校の魅力化に取り組む「いわて地域担い手育成支援事業」や、ICT等の積極的な導入に向けた「学びの改革プロジェクト」をパッケージとしてお示ししたところである。
- ・ 中高一貫教育校についても様々な御意見をいただき、従来型にとらわれない新しい形態の中高一貫教育校の設置の提案もいただいたところである。今後、研究して参りたい。
- ・ 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」という基準に対する様々な御意見をいただいたところであり、後期計画策定に向けた検討の参考とさせていただきたい。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【岩手中部ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	花巻市	上田 東一	花巻市長	
2		佐藤 良介	花巻商工会議所 副会頭	
3		高橋 章郎	花巻市産業関係者代表(農業)	
4		吉田 和仙	花巻市PTA連合会 副会長	
5		佐藤 勝	花巻市教育委員会 教育長	
6	北上市	及川 義明	北上市 副市長	
7		佐藤 秀之	北上工業クラブ 顧問	代理
8		今野 好孝	北上商工会議所 専務理事	
9		平野 憲	北上市教育委員会 教育長	
10	西和賀町	細井 洋行	西和賀町長	
11		酒本 涼子	西和賀町商工会女性部長(商業)	
12		高橋 輝彦	西和賀町産業関係者代表(福祉)	
13		藤原 康	西和賀町PTA連合会 会長	
14		柿崎 肇	西和賀町教育委員会 教育長	
15	地区中学校校代表	中村 哲	花巻市校長会 副会長(花巻市立南城中学校長)	
16		高橋 信之	和賀地区校長会 副会長(北上市立上野中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
17	県議会議員	関根 敏伸	岩手県議会議員	
18		佐々木 順一	岩手県議会議員	
19		高橋 はじめ	岩手県議会議員	
20		名須川 晋	岩手県議会議員	
21		佐藤 ケイ子	岩手県議会議員	
22		川村 伸浩	岩手県議会議員	
23		高橋 穂至	岩手県議会議員	
24	県立高等学校	川村 俊彦	花巻北高等学校長	
25		菅原 一成	花巻南高等学校長	
26		榎原 健	花巻農業高等学校長	
27		太田 優子	花北青雲高等学校長	
28		小船 光浩	大迫高等学校長	
29		泉 悟	黒沢尻北高等学校長	
30		坂本 美知治	北上翔南高等学校長	
31		千葉 治	黒沢尻工業高等学校長	
32		鈴木 裕	西和賀高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
33	県教育委員会事務局等	中屋 豊	中部教育事務所長	
34		小原 亮	中部教育事務所主任指導主事	
35		梅津 久仁宏	教育次長	
36		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
37		須川 和紀	学校調整課首席指導主事兼高校教育課長	
38		森田 竜平	学校調整課高校改革課長	
39		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
40		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
41		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
42		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	